

野宿者、 在日外国人、 震災被災者の リアル

に出会う、
盛りだくさんの
フィールドワーク！

神戸大学学生ボランティア支援室主催
地域に根差し人に学ぶ

“夏の実践塾2009”

参加者募集

■申込締切：2009年7月22日（水）

1. 能登半島地震被災地・3年目の課題と魅力

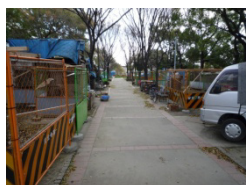
—能登半島地震から3年。地域の復興、被災者の生活再建、過疎高齢化、地方の貧困という問題の一方で、豊かな海の幸、開放的で優しい人柄、伝統ある地域文化が継承されている。能登の復興と課題を、3泊4日のバスツアー実習でたっぷりと学び、全身で考える。

- 8月3日 事前学習会
- 8月9日 13:30集合、バスにて神戸発。石川県穴水町の江尻屋にて宿泊。
- 8月10日 農業とカヌーで能登の魅力と課題を知る。
- 8月11日 能登スタディツアーと被災当事者のお話を聞く。
- 8月12日 足湯で穴水町の人びとと交流の後、バスにて神戸に戻る。



2. 大阪における野宿と貧困の問題

—大阪環状線、JR新今宮駅の南。地図にない地名“釜ヶ崎”は、日本有数の日雇い労働者の街として知られる。この街に暮らす労働者の多くは、仕事にあぶれば野宿を強いられる最底辺の生活を続けている。日本社会の矛盾、貧困の問題、テント村の生活、日雇い労働の実態…。当事者である釜ヶ崎の労働者や野宿者、そして彼らと共に生き、支援してきた方々の話を聞き、釜ヶ崎の街を歩き、日本社会の矛盾を共に考える。



- 7月24日 事前学習会
- 8月20日 19:30JR新今宮駅集合。オリエンテーション、夜回り。
- 8月21日 寄せ場見学、釜ヶ崎フィールドワーク、振り返り。
- 8月22日 西成公園テント村見学、振り返り。
- 8月23日 大阪人権博物館「リバティおおさか」見学。パペット制作実習。

3. 神戸の定住外国人の歴史と現状

—近代港湾都市として発展した神戸。しかし、異国情緒溢れる旧居留地や北野町、南京町だけに“外国人”が暮らしているわけではない。本名を隠して生きる在日コリアンや在日ベトナム人、学校の勉強についていけない日系ブラジル人やフィリピン人の子どもたちなど、私たちが見ようとしないう“外国人”と向き合い、彼らの声に耳を傾け、これまでとこれからの、地域社会の多様性について学び考える。

- 7月31日 事前顔合わせ、オリエンテーション。
- 8月24・25・27日 JR新長田駅前の「定住外国人支援センター」にて学習支援活動等に参加。
- 8月28日 HAT神戸にて、外国人の子どもたちをテーマとした寸劇鑑賞（自由参加）。
- 8月31日 在日コリアンによるレクチャー&長田区フィールドワーク。
- 9月2日 北野町フィールドワーク&旧移住センター見学&在日ベトナム人によるレクチャー。



■定員について：各分野の定員は15名とします。ただし複数受講、部分参加も可能とします。

■申し込み方法：神戸大学学生ボランティア支援室HP：<http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/index.html>から、申し込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、svs@port.kobe-u.ac.jpにメール添付して送信してください。もしくは、申し込み用紙を、学生ボランティア支援室まで持参して頂くか、Faxで送信して下さい。

■お問い合わせ：神戸大学学生ボランティア支援室（国際文化学部キャンパスC棟北側プレハブ）

電話：078-803-6256 Fax：078-803-6028 mail：svs@port.kobe-u.ac.jp

※各企画の詳細については、上記URLの学生ボランティア支援室HPをご参照ください。

※この企画は、文部科学省「平成20年度新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された神戸大学の事業「地域に根ざし人に学ぶ共生的人間力—震災の記憶の伝承と組織的体制の構築による学生生活支援—」として実施されます。